

令和7年度 岡山県立水島工業高等学校 具体的計画と評価

1 健全な心身・安全(思いやりの心を育み、安全教育を推進する)

- (1) 「ありがとうございます」「すみません」など感謝の気持ちを表現する力を育むと共に、気持ちの良いあいさつを励行することで、他者と繋がる力を育む。  
 (2) 5S 運動、危機管理教育、防災教育を通じて安全教育を推進することで、命を大切にできる心、思いやりの心を育む。

学校関係者評価	A
---------	---

担当分掌	項目番号	具体的目標・計画	現状分析	達成基準 (数値目標)	中間達成状況		最終達成状況		最終:次年度への課題及び改善点  (中間:年度末への課題及び改善点)
					達成状況	評価	達成状況	評価	
生徒課	1(1)	・自ら気持ちの良い挨拶ができるようにする。 ・自ら服装や頭髪を整えることができるようにする。 ・高校生としてふさわしい言葉遣いで人と繋がるができるようにする。 ・自らスケジュールの管理ができるようにする。	・自ら進んで挨拶ができる生徒の割合は少ないのが現状。 ・頭髮指導日をクリアすることが目標となっている生徒が少なからずいるのが現状。 ・様々な人との距離感やその場にふさわしい言葉遣いを知らない生徒も多くなる。 ・遅刻や授業中の途中退出者数も多く、生徒自身でスケジュールや体調管理ができていない割合が多い。	・生徒たちが、挨拶、身なり、言葉遣いを自ら気づき意識することで、社会に出て誰からも可愛がられる人に近づく。そのためにも"形から心へ"を理解し生活を送ることができた。 ・授業途中退出者数、各学期で各学年100人以内。	校内での生徒たちは、全体的には落ち着いていると思われる。挨拶、身なり、言葉遣いについては、継続的な指導や呼びかけが必要である。 授業途中退出者数は1年143名 2年245名 3年199名と例年と変わらない状況である。体調管理、スケジュール管理を継続して促していく必要がある。	b	幼稚な言動が見られる生徒もいるが、全体的には落ち着いた学校生活が送れていると思われる。挨拶・身なり・言葉遣いについては、全職員による継続的な指導が必要な状況である。授業途中退出者数は、12月までの延べ人数が1315名となり、体調管理とスケジュール管理に対する継続的な指導が必要と思われる。また、今年度の特別指導は7件11名で昨年よりは減少した。	b	教員が積極的な挨拶を交わすことも、生徒に伝える手段と考えられるため、先生方にも呼びかける。 各学年主任の先生に1学期の授業途中退室状況をお伝えし、学年団からも生徒への発信を促す。
進路指導課	1(1)	・社会人としての基礎を身に付ける。 進路目標の実現に向けた個人目標をもたせる。進路目標⑥社会人として必要な正しい言葉遣いやマナーを身に付ける。	良好な対人関係を築くことの重要性、およびそれが就職活動における評価に繋がるといった認識はある。	進路目標⑥を振り返り、感謝の気持ちを表現する力や他者と繋がる力を育むことができた。 進路目標⑥評価3以上80%以上	個別の進路目標を掲げて取り組み、9月の自己評価を通して反省点と今後の行動を自ら考え実行させている。	b	キャリア教育を計画的に実施した結果、進路目標⑥について、生徒の97%が達成度3以上と自己評価した。このことは、基礎的なマナーを意識した学校生活ができたといえる。	a	今年度のキャリア教育の成果と課題を分析し、来年度のキャリア教育をより効果的なものへと改善したい。
資格検定指導室	1(1)	達成感による学力向上を目指し、基礎的な資格取得合格に向けた支援を行う。	基礎資格検定である計算技術検定3級の合格率を前年比プラスにさせる。	R6年度、合格率82%から85%合格へ。	R7年度前期合格率92%となり、目標を大きく上回る結果となった。	a	R7年度後期の合格者が振るわず、年間を通しては85%となった。	a	R7後期受験後もこのままの合格率を維持出来るよう教科担当と協力の上、推進する。
電気科	1(1)	「明るく」「元よく」「誠実に」をテーマとし、積極的に気持ちの良い挨拶、大きな声で返事ができるようにする。 基本的な生活習慣の確率をめざす。	挨拶が小さく、コミュニケーションの切っ掛けにならない生徒がいる。 時間にルーズな生徒がいる。	気持ちの良い挨拶ができ、コミュニケーション能力が向上した。 基本的な生活習慣が確立でき、周囲のものとの時間共有ができるようになる。	少しずつではあるが、挨拶ができるようになってきている。 遅刻をする生徒が固定化されてきている。	b	職員室の入退室の際に先生方の協力により、挨拶等マナー向上が図られている。ただし、基本的な生活習慣においては、一部の生徒ではあるが、改善指導が必要と考える。	a	継続して指導していく
工業化学科	1(1)	・基本的な生活習慣を確立させる。 ・コミュニケーション力・社会性を身に付ける。 ・正しい言葉遣いやマナーを身に付ける。	・遅刻、欠席をする生徒がいる。 ・声が小さく相手にあいさつが伝わりにくい生徒がいる。 ・自分をうまく表現できない生徒がいる。	・SHR・終礼のあいさつや授業でのあいさつ、校外活動でのあいさつ、校内でのあいさつが気持ち良くなった。 ・「ありがとうございます」「すみません」など感謝の気持ちを表現する力を育めた。 ・基本的な生活習慣を確立すると共に他者と繋がる力を育めた。	・SHR・終礼のあいさつや授業でのあいさつは、よくできている。 ・「ありがとうございます」「すみません」など感謝の気持ちを表現する力はまだまだ身につけていない。 ・特定の生徒の遅刻・欠席の改善がみられない。	b	・SHR・終礼のあいさつや授業でのあいさつは、よくできている。 ・「ありがとうございます」「すみません」など感謝の気持ちを表現する力はまだまだ身につけていない。 ・特定の生徒の遅刻・欠席の改善がみられない。	b	継続して粘り強く指導をする。
建築科	1(1)	・日頃から気持ちの良いあいさつができる。 ・生活習慣の確立や身だしなみを意識し服装頭髪を整えることができる。	恥ずかしさもあり、感謝や謝罪を素直に声に出して表現することや、自ら進んで気持ちの良いあいさつを交わすことが、まだ定着していない現状である。	感謝すること、素直に謝罪をすること、自ら進んで気持ちの良いあいさつを交わすことができることによって、誠実な人間性が確立し、社会に出る前の準備が整う。達成基準となる数値目標は設定できません。	専門科の授業や日常の学校生活の中で、個人差はあるが感謝の気持ちや挨拶の励行など、意識していることが言動に現れるようになってきた。	b	感謝の気持ちを言葉に表すこと、気持ちの良い挨拶を交わすこと、このことについては科が関わる授業や時間においては個人差があるものができるようになってきたと思う。ただ、色んな場面においてもっと実践してほしい。	a	定着できるように今後も継続して指導していきたい。
1年団	1(1)	8時35分までに登校し朝のリズムを作る。 挨拶が自然にできるようにする。	始まって1週間の様子ではまだまだ声を出して挨拶ができていない生徒ほんの一握りである。	昨年度1年生の遅刻数総数からの減少を目指す。	4月初めに比べ5分前登校できていない生徒が少しずつ増えてきている。 挨拶もまだ自分からできる生徒が少ない。	b	昨年度との比較では遅刻数は微増となり、減少とはならなかった。2年前との比較ではかなりの減少(約50%減)であった。	b	2年生に向けて朝の声掛けを続け意識変革を促したい。5分前登校に関して担任からの協力で朝の活動を何かしら実施していきたい。
2年団	1(1)	昨年に引き続き、8時35分までには登校することを推進する。また、毎日の挨拶を大きな声でするようにする。	1年生の3学期、授業開始時及び授業終了時の挨拶があまりできなかった。入学時より、自分から挨拶を率先してすることがあまりない。また、敬語をきちんと使用することができない。	昨年度の2年生より遅刻数の総数を20%減少させる	特定の生徒が遅刻を繰り返しており、なかなか指導が行き届かない。1学期時点での遅刻総数は279回で、昨年の301回と比較し、8%減に留まった。	b	特定の生徒が遅刻を繰り返しており、なかなか指導が行き届かない。2学期時点での遅刻総数は276回で、昨年の557回と比較して50%減だった。	b	2年生の2学期が一番ポイントになると言ってきたが、やはり気持ちが緩んでいる生徒が多く見受けられる。3学期を3年生の0学期と位置づけ、3年生の意識をもたせるようにする。
3年団	1(1)	自ら気持ちの良い挨拶が出来るようになる。毎朝初めてあった時に「おはようございます」の挨拶を行う。	挨拶が出来る生徒が全体の7割、そのうち生徒自らが挨拶する生徒が5割。全体的に声が小さい。	挨拶が出来る生徒が全体の9割、そのうち7割の生徒が自ら挨拶することが出来るようになる。大きな声で挨拶が出来るようになる。	挨拶が出来る生徒が全体の7割、そのうち自ら挨拶出来る生徒は5割くらいだった。大きな声で挨拶が出来る生徒は少なかった。	b	学校行事がある元気よく学校生活を過ごし、挨拶も出来る生徒が多かったが、年間を通してみると挨拶が出来る生徒が全体の7割、そのうち自ら挨拶が出来る生徒は5割くらいだった。	b	社会に出る際、コミュニケーション力は大事だという事、対話するためにまずは挨拶が必要だという事を伝え、教職員から率先して挨拶を行ってきたが、挨拶が出来る生徒が増えていかなかった。コミュニケーションが苦手な生徒が増えてきているとは感じるが、もう一度挨拶の重要性を説明し、残りの学校生活で、学校生活のいたる所で挨拶を交わしていき、自ら挨拶が出来る生徒の割合を増やしたい。
進路指導課	1(2)	・インターンシップの安全に関するオリエンテーション。 インターンシップ期間中に発生しうる事故・トラブルを未然に防ぐための基礎知識と安全意識を参加者に習得させる。	仕事に興味を持ち、自分の将来について考え始めているが、安全意識については経験不足である。	インターンシップ中に起こり得る可能性のある事故やトラブルの種類およびそれらを未然に防ぐための基本的な安全教育を理解し、事故のない体験型学習ができた。	インターンシップ参加者へ、事故やトラブルを未然に防ぐための安全教育講演会を開催した。	b	基本的な安全教育を理解し、事故のない体験型学習ができた。 インターンシップ受け入れ企業の調査を実施したところ、受け入れ先数が増加した。(R6:90社→R7205社)	a	来年度のインターンシップ受け入れ企業の調査結果をまとめ、来年度の2年生へ紹介したい。

教育相談課	1(2)	面談や全校アンケート、欠席数調査、心理検査(アセス)等を通じ、生徒理解に努める。担任や教科・学年団と情報を共有するとともに、専門家や関係機関のアドバイスも受け、生徒や保護者への支援を行う。	アンケートや欠席日数調査等を通じて、実態を把握している。支援が必要な生徒については、継続してSCやSSWと連携し対応している。課内での情報共有や対応に課題が残る。	・年3回(6月、9月、1月)のアンケートで学習や生活面での困難を具体的に記述させる。内容を集約し、指導に生かしてもらえるようにする。 ・毎月、課で情報を収集・共有し、必要に応じて生徒や保護者に声をかける。個別の状況に応じてケース会議を開き対応する。 ・「教育相談保護者の会」を年2回(6月、10月)開催し、SCとSSWIによる相談やアドバイスを行う。	支援が必要な生徒については、SCやSSWと連携しながら対応している。心理検査(アセス)の結果の見方と活用について理解を深める機会として、外部講師による教員研修を行った。「教育相談保護者の会」も行った。課内での情報共有の手段として、毎月の欠席日数調査の際に情報共有シートへの記入をしている。	b	面談や全校アンケート、欠席日数調査等、心理検査(アセス)等を通じて、生徒の実態把握と理解に努めた。SCやSSWと連携し、生徒や保護者の支援を行った。	a	支援が必要な生徒について、引き続きSCやSSWと連携し対応していく。課会がなかなか持てず、課としての対応が十分できていないのが課題である。情報共有シートも活用しながら、課内での連携を深めたい。
保健厚生課	1(2)	・清掃指導を丁寧に行い、ごみの分別・及び少量化を呼びかける。 ・毎月10日に安全点検を実施し、日常の事故や怪我を防止する。 ・整備委員会で校内環境の整備、安全確認を行う。	・年内数回ゴミの分別について注意を行った。清掃については、担当教員の指導が伝わっていない場所がある。	・毎月10日に安全点検を行う。 ・ごみ処理についての指導はできるだけ無くす。	・安全点検表がうまく機能せず、係の先生方に使用方法について混乱を招いた。	c	年間を通じて講習会等計画道理想行うことができた。実際に修学旅行中に地震が起こったり、年始から地震が起こったりした。命を守る知識、行動を引き続き行えるよう継続したい。	a	・安全点検が正常に行われているか確認しなければならない。
保健厚生課	1(2)	・性教育、薬物乱用防止などの講演会を実施し、自他を大切にすることの育成を目指す。	講演会など最後まで聞こうとする態度や集中力が続かない場合もある。	・各学年1回講演会を実施。	講師の生徒への引き付け方が鍵になるのが、生徒の反応もよく、良い講演会でした。二学期はこれからの成功させたい。	b	防犯意識を高めるために様々な講演会を行うことができた。	a	・2年生薬物乱用、3年飲酒と健康に対する講演会は特に問題なく行うことができた。
情報管理室	1(2)	ICT機器の活用推進による生徒への連絡手段の確保を進め、安心安全な学校生活を送れるように体制を整える。	生徒への連絡はClassroomによって行われているが、参加できていない生徒もおり、連絡が行き届いていないケースがある。	全校生徒をClassroomに招待し、担任、担当者ともに参加することで相互に連絡を取ることができる手段を確立する。	全校生徒Classroomにて様々な連絡が行われ、アンケートの回収がスムーズとなっている。生徒側もChromebookを開いて確認する機会が増えつつある。	b	Classroomを通じた連絡に一定の定着があり、アンケート回答などで活用することができた。Chromebookを開く機会を増やすことにつながった。	b	連絡体制の確立と、アクセスのしやすさを今後も検討し、改善していく。
機械科	1(2)	安全に作業できる実習環境の整備する。また、作業の「見える化」を行い徹底した整理・整頓を行う。	ここ数年で実習室の不要な物を廃棄し、整備を進めている。60年以上の歴史の中で溜まってきた物の整理は全てできていない。	全ての実習室で片付け方の「見える化」を行い、生徒に整理・整頓を行わせながら実習室を整備していく。	整備が進んでいる実習室もあれば、まだこれから実習室も残っている。	b	今年も入試の空き時間を利用して実習室整備を実施予定である。新たに取得した機械もあり配置を考えながら進めていく。	b	長年に渡って蓄積してきたものはなかなか片付かないので継続して実習室の整備を進めていきたい。
建築科	1(2)	・教室や実習室の清掃、整頓に務めることができる。 ・実習時の服装を整え、機械や工具を正しく安全に使用することができる。 ・防災訓練、防災教育を通して防災意識を高め、命を大切にできる行動ができる。	清掃や整理整頓など5Sに関することや、実習服の着こなしや機械・工具の取り扱いにも安全指導も継続的に指導できているので定着している。ただ、防災教育に関わる危機意識は認識が甘いので、今年度の課題である。	5Sの徹底により学習環境が整い、安全指導も効果を上げ、大きな事故やけがが0になる。防災意識も高まり、命を大切にできる言動へと結びつく。	ここまでの授業では、大きな事故やけがもないので、継続していきたい。	b	このことへの意識や言動においては向上している。よって安全への意識も定着し、大きな事故やけがが0になった。次年度も継続していきたい。	a	今後も安全教育を徹底していき、事故やけがを起こさないようにしていきたい。
情報技術科	1(2)	実習前に5SやKY活動の啓蒙指導を行い、事故が発生しないような指導と効果的な授業づくりを行う。	PCを扱う実習が多いため、安全への意識が低い。開始時に実習服を正しく着こさせている生徒は、5割ほどに留まっている。	5S,KY活動の徹底により、事故やケガがゼロになる。また、全員が実習服を正しく着こさせている。	実習前には、着こなし指導や安全教育を実施した。1学期では、指先をやけどするなど軽微な事故があった。2学期はゼロになるようにしていきたい。	b	毎時間、安全意識の定着を図ることで安全意識について向上が見られた。大きな事故もなく1年を終え、次年度も継続していきたい。	a	毎時間のKY活動を徹底する。

2 知識・技術・社会性（真の実力を身に付けさせ、キャリア教育の充実を図る）

- (1) 授業改善を通して、主体的、対話的な学びの充実とコミュニケーション能力の向上を図る。
- (2) インターンシップや社会貢献活動などの体験型学習を推進し、協働的な学びとキャリア教育の充実を図る。

担当分掌	項目番号	具体的目標・計画	現状分析	達成基準 (数値目標)	中間達成状況		最終達成状況		最終：次年度への課題及び改善点  (中間：年度末への課題及び改善点)
					達成状況	評価	達成状況	評価	
教務課	2(1)	・学力向上プロ委との協働。1人1台端末を利用した個別最適学習の推進。 ・公開授業、互見授業等の取組を通じた授業改善。「主・対・深」の推進。 ・観点別評価の適切な実施。	・学ブ委の位置づけが不明確。端末の授業内での活用について、生徒教員ともに肯定的な回答が6割程度(R6年度)。活用をさらに推進する必要がある。 ・年間を通じた授業改善のスケジュールが整理できていない。 ・観点別評価と評点での評価について一部整理できていない部分がある。	・2学期末赤点科目所持者(のべ数)が減少(R6年度は1年47、2年89、3年132)した。 ・授業改善の取組スケジュールを整理し、教科、専門科内での公開授業、研究協議を複数回実施できた。 ・研修会を実施し、評価方法の整理を実施できた。	・1学期末の成績不振科目所持生徒への個別指導を行い、学習意欲の向上を促した。 ・第2回基礎診断テストに向け、7月にChromebookを使用してスタディサプリ活用講座を実施した。1年生の約73%が運動型課題に着手し、個別最適学習に取り組んでいる。9月に第2回を実施する。	b	・2学期末の赤点科目所持者(のべ数)は、1年83、2年85、3年40。 ・9/30に今年度2回目の基礎診断テストを1、2年生に実施し、9月の1ヶ月間を学力向上の取組期間とした。スタディサプリ等を使った事前学習に取り組む生徒が増えた。公開授業は例年どおり11月に実施したが、例年以上の工夫はできず。 ・生徒の活動の多面的評価に資するべく、成績評価内規の改定案を1月の職員会議に提案した。	b	・Chromebookの活用推進、学力向上、自己管理能力向上を同時に進めるため、今年度は1年生にスタディサプリを導入し、1学期と2学期に活用場面の説明を行った。 ・来年度は学力向上プロジェクト委員会が主導し、学力向上に向けた指導体制を整えたい。 ・自己管理能力向上のため、Chromebookを活用してスケジュール等を生徒が自己管理できるポータルサイトを作成した。来年度4月からの正式導入に向けて、3学期を試行期間とする。
情報管理室	2(1)	ICT教育の充実により、授業をスムーズに展開し、端末活用を促進させる。	多くの教科で端末活用が定着しつつあるが、学びの場面に合わせた活用が不十分と感じる。	教育情報化優良校として活用能力を向上させる研修の開催や端末活用のモデルケースを紹介する。	端末活用の研修等が実施できておらず、公開授業等での紹介にとどまっている。アプリの効率活用を模索しながら共有できるように準備したい。	c	生成AIを教員向けに導入し、10/14(火)に教員向けスタート研修を実施することができた。さらにGoogle系のマイマップやearthなどを使用して授業の中で活用するなどアプリ活用の場面を拡張できた。	a	生徒の端末活用を促すため、使えそうなアプリやソフト等を積極的に取り入れていく。Microsoft365アカウントの発行申請をし、活用の幅を広げる。
資格検定指導室	2(1)	技能マイスターの積極的な活用のもと、ものづくりを通じて技術とコミュニケーション能力を高める。	技能検定試験の積極的な受験を推進。	R6年度、技能士2級受験者0名 R7年度、技能士2級受験者2名、合格者1名を目指す。	前期の技能検定2級受験者はなし。(3級は15名合格)後期に受験者を確保出来るよう努力する。	c	後期受験者12名。結果は3月中旬発表予定。	b	岡山県職業技術賞、ジュニアマイスターを対象に含めて評価出来るように見直しを検討中。
機械科	2(1)	「協働的な学び」の場を増やし、コミュニケーションを取ることを必要とする授業を実施していく。	授業改善に取り組んでいる教員と改善が進んでいない教員との差が大きくなってきている。	教諭は年間1回以上「協働的な学び」の授業を実践している。	1学期はまだ実施できない。2学期では実施できるように準備していきたい。	b	コミュニケーションを取りながら発表を行う授業を実施している。また、2年生では「地域企業等との交流会」を行い、生徒の成長へ繋げている。	a	授業改善を行う雰囲気や科内で醸成している、「協働的な学び」に限らず新しいことを実施していきたい。
工業化学科	2(1)	・グループ活動やChromebookの活用の場を設け、工業化学の諸課題について話し合いや発表を通して学びを深めると共にコミュニケーション能力の向上を図る。	・課題研究・実習等ではグループ学習が行われているが、座学においてはあまりグループ学習ができていない。	・座学においてもグループ学習を年2回以上行う。	・課題研究で取り組んでいる。	b	・実習及び課題研究においては、グループ学習ができており、対話的な学びやコミュニケーション能力の向上が見られた。 ・座学においては、取り組んでいる授業もあるが、すべての科目での実施はできていない。	a	・課題研究の完成度を高めていく。
建築科	2(1)	・グループ学習の場を設け、話し合いや発表を通してコミュニケーション能力の向上を図る。	課題研究の他には、あまりグループ学習は行われていないのが現状。	外部団体のコンペに参加し、チームで取り組み協働作品を応募する。	実習系科目においては、主体的・対話的な学びができており、座学においてはコミュニケーション能力の育成が十分図れていないので、今後強化していきたい。	b	実習系科目ではグループ単位で主体的・対話的な学びができ成果を上げたが、座学においては目標達成に向けての授業改善が課題として残った。	b	情報共有していき、課題である座学において強化していきたい。
情報技術科	2(1)	グループワークやPBL学習の場を設け、対話的な学びの充実とコミュニケーション能力の向上を図る。	グループワーク等の主体的対話的活動があまり行っていない。	年に2回以上グループワーク等の主体的活動を授業に取り入れる。	1学期では、1回実施した。 2学期でも実施していきたい。	b	2学期に入り、グループワークやPBL、ポスターセッションをおこなった。 対話的な学びが増え、コミュニケーション能力の向上につながった。しかし、一部の授業での実施に留まっている。	b	すべての授業で実施できるように実践事例を共有し、やりやすい雰囲気にする。
進路指導課	2(2)	・職業観や勤労観の育成。 多様な進路選択肢への理解を深め、主体的に将来の進路を決定できるようになることを目指す。	様々な進路支援プログラムを通じて、将来の進路について意識を高めようと努めている。	進路支援プログラム(インターンシップ、各種ガイダンス、進路ノート)を通じて、将来の進路について主体的に考え、適切な選択ができており、80%以上の生徒が希望する進路が定まっている。	進路選択プログラム(各種ガイダンス、インターンシップ、進路LHR)を通じて、将来の進路について主体的に考えさせている。	b	年間を通じた進路選択プログラムに沿って、一貫性のある支援を提供することができた。 将来の進路について(1・2年)96%の生徒が希望する進路が定まっている。このことは、生徒たちの自己理解を深め、主体的な進路選択へと繋がる具体的な行動の結果といえる。	a	今年度の進路活動を見直し、来年度に向けた進路選択プログラム(各種ガイダンス、インターンシップ、進路LHR)を改善していきたい。
進路指導課	2(2)	・生徒の自己実現を支援する。 生徒に適切な情報提供と進路指導を行い生徒の自己実現を支援する。	進路意識、職業理解、情報収集力に個人差がある。また、就職意欲と必要な準備のギャップがある。	進路の希望先へ就職・進学ができており(100%) 進路情報を知り、進路先研究を始めている(1・2年生)	3年生は受験先を決め、応募準備を進めている。 1・2年生は企業研究をしている。	b	3年生は計画的な進路支援の結果、生徒は希望の企業や学校へ合格(内定)することができた。 1・2年生は進路目標①～⑤項目により、将来の進路実現に向けた取り組みができた。(評価3以上80%)	a	進路課年間計画を評価・検証し、その結果に基づき来年度の計画を策定したい。
図書課	2(2)	倉敷市立船穂図書館との連携事業等を通し、社会貢献の意義を学ぶ。	先方の人数希望等があるが、必ずしも希望者全員は参加できていない。	今年度も年2回、7月と12月に計画している。積極的に希望する生徒が増えるように働きかけ、社会貢献の意識をもたせる。	船穂図書館との連携事業は、7月は予定通り実施した。先方の希望人数制限で参加した生徒7名は、時間いっぱい熱心に活動していた。	b	12月予定の船穂図書館との協働事業(本校主催のクリスマス会)は図書委員の事前準備も積極的にポスターも作成したので、参加者も多く非常に良いものだった。	a	12月予定の船穂図書館との協働事業(本校主催のクリスマス会)は、昨年の参加生徒が非常に良かったので、それを超えるような会にしたい。
地域連携	2(2)	社会貢献活動を実施する中で、積極的に地域と連携し学校を核とした地域活性化に繋げる。	インターンシップだけでなく、地域の企業と連携した文化祭展示やワークショップを実施している。このことが、キャリア教育充実の一助となっている	本校の地域での役割を生徒・教職員が自覚し、各種の取り組みを充実したものとす。	・前期の取り組みとして、新たに「夏休み工作教室」(水島会館主催)を実施した。15組の親子が参加し大変盛況であった。水島会館から来年度以降も継続実施の依頼があった。また、文化祭でも昨年同様に地元企業並びに西阿知公民館の活動展示の計画を進めている。	a	・文化祭では、企業ブース並びに西阿知公民館活動の展示スペースを充実することで、昨年より多くの方に見学・ワークショップを楽しんでいただけた。また、西阿知公民館での「シニア向けスマホ教室」も盛況で、次回の教室開催も切望された。	a	校外での社会貢献活動において、各課の専門性を生かした活動を充実させることで、本校の取り組みを知っていただく。
機械科	2(2)	生徒へ積極的に情報提供を行い、インターンシップ参加を推進する。	昨年度は22名の生徒がインターンシップに参加してくれた。	インターンシップ参加20名以上。積極的に外部へ出ていくことを後押ししていく。	インターンシップへは21名が参加した。	a	インターンシップへは21名が参加し、報告書の作成も完了した。	a	報告会に向けて準備を進めていく。また来年の参加者が増えるよう報告会で1年生にアピールしていく。

2 知識・技術・社会性（真の実力を身に付けさせ、キャリア教育の充実を図る）

- (1) 授業改善を通して、主体的、対話的な学びの充実とコミュニケーション能力の向上を図る。
- (2) インターンシップや社会貢献活動などの体験型学習を推進し、協働的な学びとキャリア教育の充実を図る。

担当分掌	項目番号	具体的目標・計画	現状分析	達成基準 (数値目標)	中間達成状況		最終達成状況		最終：次年度への課題及び改善点  (中間：年度末への課題及び改善点)
					達成状況	評価	達成状況	評価	
電気科	2(2)	インターンシップの参加を呼びかける。電気科に関わる社会貢献活動の情報を提供して、積極的参加を募る。	例年5名程度の参加である。社会貢献活動においては、必要人数の半数ほどは、呼びかけで集まる。若干消極的。	インターンシップへの参加者が増えた。社会貢献活動に対して、積極的参加者で必要人数を確保できた。	インターンシップに17名の生徒が参加。ものづくり教室などの社会貢献活動に比較的集まりが良かった。	b	インターンシップ、社会貢献活動等地域との関わりを積極的に参加できる生徒が増えた。	a	社会に関わりを持つ意識を高められるよう、指導の継続をおこなう。
工業化学科	2(2)	・インターンシップの参加者を増やすために適切な情報提供する。 ・社会貢献活動の情報提供をする。 ・体験型学習を通して生徒の自己実現を支援する。	・インターンシップ参加者、R5は19人、R6は31人(のべ人数) ・社会貢献活動には積極的に参加する生徒が多い。	・就職希望の生徒がインターンシップに80%以上参加した。 ・校外内の社会貢献活動に参加し、協働的な学びができ、自己実現の参考となった。	・インターンシップ参加者19名 ・社会貢献活動には3年生を中心によく参加できている。	a	・インターンシップ参加者24名 ・社会貢献活動には3年生を中心によく参加できている。	a	夏実施のインターンシップに参加する生徒を増やす。
建築科	2(2)	・インターンシップに積極的に参加する。 ・現場見学を通して実践的な技術や知識を習得する。	インターンシップは比較的多くの生徒が参加しており、現場見学も継続的に実施しているため、今年度も協働的な学びとキャリア教育の充実が図れそうである。	インターンシップへ30名以上参加し、建設現場(工場も含む)へ2箇所以上訪問し、キャリア教育の成果を上げている。	インターンシップへは全員(1名けがによりやむを得ず不参加)が参加し、体験型学習をとおして成果を上げた。	a	インターンシップの参加や地域との対外的な場をとおして、協働的な学びやキャリア教育の充実を図ることができ成果を上げた。	a	インターンシップの成果を学習活動に活かしていきたい。
情報技術科	2(2)	インターンシップに積極的に参加する。	昨年度、情報系企業が県内に少ないためか参加者がゼロであった。	インターンシップの参加者が10名を超える。	インターンシップへは4名参加した。	b	インターンシップ4名参加。目標となる10名には届かなかった。情報系企業だけではなく他分野の企業への興味を持ってもらうように情報発信をしていく。	b	企業の情報などを周知し、参加者の増加に努める。
1年団	2(2)	社会貢献活動に積極的に参加する。	校外研修など学年全体での参加は今年度も見込まれると思う。	学年全体以外での貢献活動参加を各自1回行う。	部活動等で貢献活動に参加している生徒も少しいるような現状である。	b	学年全体で2回の活動を行い、2回参加できていない生徒は5名、その回数プラス1回以上こなした生徒は56%だった。(達成者56%)	b	2年生での全員達成を目指しモチベーションを上げていきたい。
2年団	2(2)	インターンシップや社会貢献活動に積極的に参加する。	部活動の全員入部を廃止した。その結果、部活動に所属していない生徒は社会貢献活動の達成日数が進んでいない。	部活動に所属していない生徒の50%がインターンシップに参加する。また、学年団で年1回の社会貢献活動を企画する。	インターンシップの参加者が99名だった。昨年より30%増加した。部活動に所属していない生徒に参加させたかったが、参加させることができなかった。	b	最終的なインターンシップの参加者が98名で昨年より30%増加した。部活動に所属していない生徒に参加させたかったが、参加させることができなかった。	b	報告書の作成や増加単位認定など残っていることを確実にやる。
3年団	2(2)	・社会貢献活動に積極的に参加し、奉仕の気持ちや地域社会に貢献する気持ちを育成する ・校外内の活動より自らの進路を決定し、それぞれが進路実現に向けて活動する意欲と態度を育成する	・2年時まで5回終了者が175名、後1回が51名、2回が25名、3回が5名、4回が2名いる。 ・具体的な希望進路が未定の生徒が多い。現在個人面談中で生徒の現状を調査中である。	・生徒全員が5回の社会貢献活動を終了している。 ・就職希望者は全員応募前職場見学に参加する。進学希望者はオープンスクールに参加したり補習等進学準備を日頃から行っている。	・社会貢献活動は後2回が2人、後1回が5人となった。 ・就職希望者は全員応募前見学に参加出来た。指定校・特別推薦希望者で、大学17人、大学校4人、専門学校8人は決まった。今後も国公立や大学の希望者が出てくるので対応したい。他の進学希望者も多くの生徒が夏季休業中を利用しオープンスクールに参加出来た。これから補習等の進学準備を行わせたい。	b	・社会貢献活動は後1回が1人となった。 ・就職希望者182人(学校推薦175人、公務員1人、縁故6人)は全員就職先が決定した。進学者は66人(岡山県立大学1人、私立大学34人、文部省管轄外・大学校5人、専門・専修学校26人)、未定者は7人(指定校等の結果待ち3人、その他4人)の現状でそれぞれの進路がほぼ決定した。その後も今までと変わらずしっかり学校生活を送るよう指導していきたい。	b	・社会貢献活動は全員終了した。 ・担任の先生や進路課の先生方のお力の下、ほぼ全員生徒の進路が見えてきた。担任の先生方のご指導が中心となるが、その指針を進路指導課が早い段階から情報を提供していただき、計画的に進路決定までを進めてきたことがこの結果となっている。また、各専門科の先生や教科担当の先生、進路指導科の先生等、学校をあげてご指導いただいた結果だとも感じたので、今後もこのような取り組みが大切だ。生徒には、進路決定しても気持ちを緩めることなく学校生活を過ごし、無事卒業式を迎えるよう指導していく。

3 地域との関わり(魅力ある工業高校・開かれた学校づくり)

(1) ものづくりを通して、SDGs教育・防災教育を推進し、地域の拠点となるよう開かれた学校づくりを推進する。

(2) 広報活動の一層の充実を図ると共に、地域活動に積極的に取り組むことで地域に必要とされる高校、中学生が進学したい工業高校となるよう魅力を生み出す。

学校関係者評価	A
---------	---

担当分掌	項目番号	具体的目標・計画	現状分析	達成基準 (数値目標)	中間達成状況		最終達成状況		最終:次年度への課題及び改善点 (中間:年度末への課題及び改善点)
					達成状況	評価	達成状況	評価	
進路指導課	3(1)	・地域産業との連携 就職を希望する生徒に対し、地域企業との連携を通じて、地域産業への理解を深め、地域社会に貢献できる人材の育成を目指す。	地域に根ざした企業への就職に関心を示しており、地域経済の活性化に貢献したいという意欲を持っている。	地元企業へ、就職者の90%以上が就職している。	地元企業へ158人(85%)が希望している。	b	地元企業は多くの求人(1314)をいただいた。就職希望者は182名(71%)で、地元(岡山)への就職者は150名(82%)であった。3年生のクラスへは県内企業の紹介を毎日行った。	b	来年度も地域経済の活性化を図るため、生徒への地元企業紹介を継続して実施したい。
保健厚生課	3(1)	防災訓練・避難訓練を実施し、LHRで防災に関する知識を深めさせ、危険予測に基づいた判断力や、行動力を養う。	自ら生きるために、考えて行動できる能力が低い。	・年2回の防災訓練を行い、火災、地震による災害を想定して、自ら生きるために判断し、行動する態度を養う。	最初の防災訓練は、よくできたと思う。	b	活動状況の発信、清掃活動等地域に知ってもらおう様々な行事を行うことができた。	a	・日程が決まり、職員生徒の行動力がどこまでできるか。担当者と確認しながら実施していきたい。
資格検定指導室	3(1)	科保有の過去問題や模擬問題を資格検定室で集約し、合格に向けた資料収集を行う。	各種試験問題のPDF化、クラスルーム等を活用した模擬試験ポータルの充実。	模擬、過去問題の集約と一元管理。	要件定義を実施中。2学期環境準備を計画中。	b	各試験の情報集約実施完了。次年度は、校内共有方法の検討を実施予定。	b	要件定義を実施中。2学期環境準備を計画中。
教務課	3(2)	・中学校教員向けの学校説明会の工夫。 ・中学校、塾に対する広報活動の推進。 ・ニーズのヒアリング実施。 ・生徒会や5科等他部署との協働。効果的な広報のあり方を研究。	・倉工と合同での説明会について、効果的な実施方法を研究中。更なる工夫の余地あり。 ・塾を通じた広報のあり方について、更に研究の余地あり。昨年度は3回実施した(名修塾、明光義塾、進英ゼミナール)。中学校訪問は夏休み中に1回実施している。 ・広報活動は各部署でそれぞれ実施している。	・中学校や塾への広報活動の複数回実施。 ・オープンスクールの参加者数増加(R6年度は夏464名、秋397名)。 ・進学希望調査(1次)の結果が昨年度(277名)を上回る。	・塾主催の説明会への複数回参加(名修塾、明光義塾)。10月にはもう1つ参加予定。加えて、近隣の塾への学校案内、オープンスクール案内を持参し、配布を依頼した。 ・学校案内を、これまで配布してこなかった岡山市内の中学校にも持参、配布した。 ・夏のオープンスクールは形態を大きく変更し、自由参加形式で実施。参加者からは概ね好評を得た。参加者数は467名。	b	・10月に進英ゼミナール主催の説明会、11月には多津美中学校で入試説明を兼ねた説明会を実施。3月にも塾主催の説明会に参加予定。去年に比べ実施回数を増やし、積極的な広報を行った。 ・オープンスクールの参加者数は、夏467名、秋419名。ともに昨年比微増。 ・進学希望調査(1次)の希望者数が、294名。定員を充足できた令和5年度の数字と同程度となった。	a	・当初設定した3つの指標はともに達成した。 ・広報について、3校合同説明会やオープンスクール、中学校や塾などへの広報、岡山市内の中学校へのチラシ持参などできる限りのことはしてきたが、今後の生徒募集に向けた広報の重要性を考えると、教務のルーティンをこなしつつさらに積極的な広報を実施するのは難しい。体制の見直しが必要だと感じる。
生徒課	3(2)	・部活動の活性化、学校行事の充実を図る。ホームページ等を通じて各行事のタイムリーな広報活動を行い、地域の方や中学生にも水工への理解高める。	・部活動に入部して活動している生徒数は減少傾向にある。	・部活動への入部率80%。 ・積極的な広報活動によるホームページ閲覧数の増加。	運動部366名 文化部283名 合計649名 部活動入部率81%が現状である。安全で自主的な活動が継続できるよう、顧問の先生方への協力要請をする。	b	運動部、文化部ともに全国大会、中国大会での活躍が多くみられた。地域の方や中学生などへ水工の魅力発信に大きく貢献したと思われる。また、各部活動において地域の方々に対し、ボランティア活動を実施した部活動もあり地域への貢献活動も多くみられた。	b	部活動に入部している生徒たちが、安全に活動できるように、顧問の連携を促す必要がある。
進路指導課	3(2)	・地域企業との連携を強化することで、生徒の就職先の確保に繋げ、地域の中学生に工業系の職業への関心を高める。また、PTA事業、説明会、オープンスクール等で情報提供を行う。	地域で活躍できることへの理解はある。	本校を希望する生徒が昨年度よりも増加している。	PTA事業やオープンスクールなどを活用し、本校の進路実績やキャリア教育について情報提供した。	b	広報活動を通じて、進路情報を効果的に発信した。これにより本校を希望する生徒が増加することを期待している。	b	今年度の進路データをまとめ、来年度の広報活動に利用したい。
情報管理室	3(2)	ホームページのこまめな更新により、学校の様子を内外に周知するとともに見やすさや操作性向上を目指したレイアウト改変などを継続する。	情報発信はこまめに行われているが、表現や画像の有無などで有効に発信できていないケースがある。	見やすさ、伝わりやすさを考えてレイアウト配置を改変する。 情報発信時に、わかりやすい表現を意識し、タイムリーな発信に努める。	ホームページのレイアウトや画面配置などを適宜、更新しておりタイムリーに情報発信ができています。内容の精査やさらなる見やすさの向上に努めたい。	b	タイムリーな情報発信が継続的にできた。アカウントのパスワードが県の方でリセットされたことに伴い、アカウントの管理体制を整理して再度、配付できた。	a	ホームページの管理、運用を継続し、不正アクセスなど県からの連絡確認を徹底する
地域連携	3(2)	本校の活動を、HPや報道機関を利用して中学生やその保護者に広く伝える。	年2回実施している、西阿知地区清掃奉仕活動については、報道機関に取材依頼をしており、取材にも来ている。また、校外外のイベントや地域での教育活動についてはHPで紹介している	地域連携活を含めた、教育活動の様子を毎月5本程度、HPで紹介する。	部活動報告、社会貢献活動や夏休み講座等の記事をHPで紹介した。2学期はさらに多くの記事をHPで紹介し、生徒募集につなげたい。	b	各種学校行事や各科の取り組みについて、HP等で紹介することができた。また、図書委員会の活動(船穂図書館ボランティア)が倉敷第一中学校区人権学習推進委員会から表彰されることになった。	a	各専門科の授業や部活動を含めた、学校での普段の様子をブログで紹介し、本校の取り組みを各方面で紹介することで、生徒募集につなげる。
機械科	3(2)	地域の環境啓発イベントに参加し、地域の方や中学生に魅力を発信していく。	昨年度の機械科の志願倍率は特別1.19、一般0.22であった。	くらしき環境フェアと環境フォーラムin船穂へ参加し、広報活動を行う。	くらしき環境フェアには申し込み済みで11/16に参加予定。環境フォーラムin船穂は今年度実施されなかった。	b	くらしき環境フェアに参加し、機械科でのものづくりの体験とスターリングエンジンによる環境学習を紹介した。	a	地域活動への参加を定期的に行っていく。中学生やさらにその下の小学生に向けての広報活動を行っていく必要があると感じた。
電気科	3(2)	電気技術者として必要な資格取得率を向上させ、地元企業に求められる人材育成を行う。また、授業内の様子などをHPを活用し発信していく。	第2種電気工事士を1年生で全員受験させているが、合格率が低調である。電気主任技術者試験においては、挑戦する生徒が少ない。09レースを行っているが、ものづくりを経験したことがない生徒が多い。	1年生の合格率を50%達成できている。ものづくりにおいて、創意工夫ができるようになる。	2年生3年生において、第2種電気工事士取得に至っていない生徒が、上期に挑戦し20名程度合格した。	b	1年生50%合格は残念ながら達成できていない。昨年度までと、補習体制について変更したが効果がなかった。第2種電気工事士全員受験を辞めるという選択肢はないと思うが、次年度以降どうするか考えなくてはならない。	b	1年生に対して、関係の授業や放課後の補習で対応し、出来ることなら、50%近い合格者を出したい。
工業化学科	3(2)	・工業化学科の活動を、HPや報道機関を利用して中学生やその保護者に広く伝える。 ・オープンスクール、説明会、中学校訪問等で本校の魅力を伝える。	令和7年度入学入試では定員を満したが、工業化学科を目指した生徒数は減少している。	工業化学科を希望する生徒が定員を超えている。	・夏のオープンスクールでは5つの班で360名の中学生に体験してもらった。 ・中学校訪問、玉島東中、玉島西中、黒崎中を訪問。	b	・オープンスクールのアンケート結果から工業化学科で体験した中学生、夏15.3%、秋16.7%と増加した。また受検したいと回答した中学生、夏13.7%、秋15.7%と増加した。	b	・2学期の小学校との交流学习を中止したので、次年度は実施したい。
建築科	3(2)	・建築科作品展に向けてレベルの高い作品を制作し展示することで地域社会へアピールする。 ・地域の小学生、中学生、保護者に向けて親子建築教室を実施する。	広報活動の場である建築科作品展では、図面の出展割合が多くなってきているので、模型や工作物を増やすなど検討が必要である。地域活動においては、親子建築教室を継続していきたい。	建築科作品展や親子建築教室を開催することによって、本校建築科の広報へとつながり志願者数が定員を上回る。	オープンスクールや出前授業などで地域への情報発信はできた。今後は建築科作品展で中学生へのアピールをしていきたい。	b	オープンスクールや作品展などをとおして地域や中学生や企業へのアピールはできたが、中学生が進学したいと思える魅力の発信には力不足であったように思う。	b	引き続き外部との活動の場に積極的に参加していきたい。

3 地域との関わり(魅力ある工業高校・開かれた学校づくり)

(1) ものづくりを通して、SDGs教育・防災教育を推進し、地域の拠点となるよう開かれた学校づくりを推進する。

(2) 広報活動の一層の充実を図ると共に、地域活動に積極的に取り組むことで地域に必要とされる高校、中学生が進学したい工業高校となるよう魅力を生み出す。

学校関係者評価	A
---------	---

担当分掌	項目番号	具体的目標・計画	現状分析	達成基準 (数値目標)	中間達成状況		最終達成状況		最終:次年度への課題及び改善点  (中間:年度末への課題及び改善点)
					達成状況	評価	達成状況	評価	
情報技術科	3(2)	HPやSNS、地域イベントを活用して、情報技術科の活動や魅力を中学生や保護者、地域の方々へ発信する。	昨年度は定員を超える多くの志願者がいたが、一昨年度は情報技術科を第1志望する者が定員の人数に満たなかった。	情報技術科の定員を超える希望者がいる。	科学キッズフェスティバルに参加予定。	b	科学キッズフェスティバルに参加し、情報技術科の紹介やロボット制御についての発信した。 次年度も参加し、工学における情報技術の発信をしていきたい。 HP、SNSの活用の活用は今年度取り組みなかった。	b	地域イベント等通して魅力を発信していきたい。ブログ更新の頻度が少ないので多くの情報を発信する。